

同志社大学



ハリス理化学研究所

Harris Science Research Institute

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3  
TEL : 0774-65-6220 FAX : 0774-65-6804  
URL : <https://harris-riken.doshisha.ac.jp/>  
E-mail : [jt-riko@mail.doshisha.ac.jp](mailto:jt-riko@mail.doshisha.ac.jp)



**H** Harris  
Science  
Research  
Institute

ハリス理化学研究所



同志社大学  
Doshisha University

# ハリス理化学研究所について

## 同志社の科学教育と研究の歴史

### ■ 1890年「ハリス理化学校」での授業開始

「ハリス理化学校」は同志社の創立者、新島襄が抱く科学教育への熱意に共感したアメリカ人J.N.ハリス氏の資金援助を受けて、「ハリス理化学館」竣工と同時に開校されました。「理化学」という言葉が、科学教育・研究の機関名あるいは建造物の名称に使われたのはおそらくこれが初めてであり、まさに日本における西洋自然科学(理化学)の幕開けといえるでしょう。「ハリス理化学校」の開校には、科学的視点は人々の幸福に欠くことができない。という理学士新島の思いが込められています。国際主義・自由主義・キリスト教主義は、同志社の全学的な教育・研究の理念であると同時に、これらは科学の根底に関わる真理をも的確に言い表しています。

### ■ 1959年「理工学研究所」の設立からの発展

工学部設立10年にあたるこの年、「ハリス理化学校」の伝統を受け継ぎ、今出川キャンパスに「理工学研究所」が設立されました。工学部と協力しながら、高度経済成長の中にあって、技術立国日本を支える役割を果たしてまいります。1994年、「理工学研究所」は工学部とともに京田辺キャンパスに移転し、2008年には工学部が10学科から構成される理工学部へ改組・再編されました。その後「理工学研究所」は、理工学部を中心とする理系2学部・3研究科の協力体制へと発展してまいります。

### ■ 近年の課題

一方、近年、様々な学内事情や社会、国際情勢の変化の中で、新しい課題も見えてきました。科学教育・研究における同志社の理念を、歴史的背景とともに、如何にしてより明確に学内外へ伝えていくのか。Creative Hillとしての京田辺キャンパスの魅力を再構築し、新しい教育・研究フィールドを創出できるような理化学シナジー(相乗効果)を、どのようにして生み出していくのか。また、人々に親しまれる研究所として、どうあるべきなのか。これらの課題について、研究所内での議論が活発になっていきます。

### ■ 2015年「ハリス理化学研究所」への改組

その議論を踏まえての解決策として、「ハリス理化学校」開校・「ハリス理化学館」竣工125周年にあたる2015年に、同志社の科学教育・研究の原点を再認識するため「理工学研究所」を「ハリス理化学研究所」に名称変更し、京田辺キャンパスの6学部と6研究科が参加・協力し、すべての学部・研究科の教員全員が兼任研究員として行動を共にする新たな組織構成に改組されました。

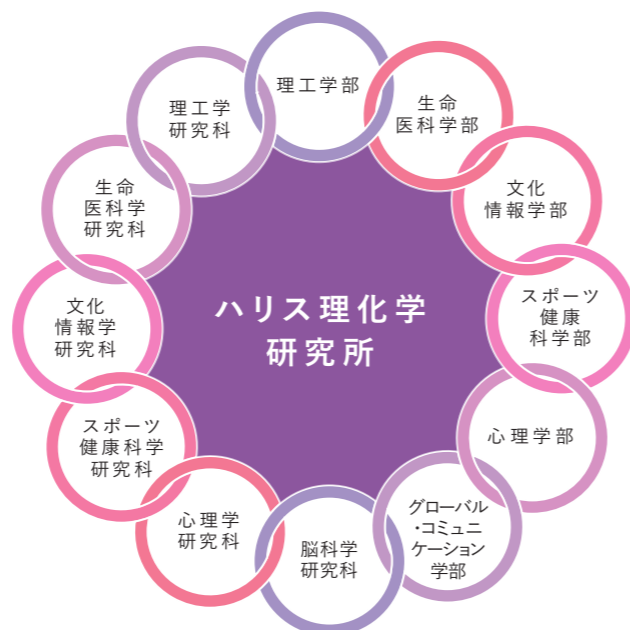
## 現在の「ハリス理化学研究所」

### ■ 「ハリス理化学研究所」の目的

「ハリス理化学研究所」は、科学的視点をもった総合的な人間性を育むこと、すなわち「すべての能力を円満に達成せしむること」を念頭にいた人物養成を通して、自然科学全般の様々な領域・接点で関係してくる高度な教育と研究を遂行することを目的とします。活動の根底には、同志社設立の理念から、次の3つの視点が反映されるような自然科学研究領域が想定されています。④国際的視点(国際主義のもと、国際社会、グローバル化等をキーワードにした研究)、⑤創造的視点(自由主義のもと、自由、想像、未来等をキーワードにした研究)、⑥人間的視点(キリスト教主義のもと、人、身体、心等をキーワードにした研究)。上記目的と研究領域にそって、必ずしも投資・拡大・競争の原理に捕らわれることなく、育成・創造・切磋のなかから芽生えてくるような研究を意識していることも特徴のひとつです。

### ■ 「ハリス理化学研究所」の役割

京田辺キャンパスの6学部と6研究科が参加し「先端技術・情報・生命・身体・心・コミュニケーション」をキーワードに、幅広い研究テーマを展開しています。学部・研究科間の情報交流、人的交流、学内外との共同研究、および学外資金導入などに取り組んでおり、京田辺キャンパスにおいて様々な研究センターが設置される素地を生み出しています。また、科学の真の発展には、依存、模倣、追従ではなく、豊かな創造性と独創性が要求されます。創造性と独創性の重視、これが同志社の科学教育と研究の根幹を成しています。「ハリス理化学研究所」は、京田辺キャンパスにあってその中心的役割を担ってまいります。



## 研究活動

本研究所は専任研究員と兼任研究員で構成され、その研究分野は、電気、機械、化学、知識、情報、数学、物理、生物、地学、科学史など幅広く、近年では学際的かつ総合的に各分野の境界領域にも広がっています。国内外との共同研究を活発に行うと同時に、全学の自然科学教育部門をも担っています。

### 部門研究

人文科学・社会科学との連携も含めた広い領域にわたる総合的自然科学分野および学際的研究分野に関して、同志社大学の全学的な研究資源を活用した部門研究を設置し、支援しております。部門研究を通じて複数の異なる学部あるいは独立研究科、専門職大学院に所属する教員の共同研究を推進しています。

### 研究助成

ハリス理化学研究所では、本研究所の目的の一つである「自然科学及びその関連領域の基礎並びにそれらの応用に関する研究」を推進するため、所員からの応募を選考して研究助成を行っています。



### 公開講演会

ハリス理化学研究所では「同志社大学ハリス理化学研究所研究発表会」を年1回開催するとともに、「同志社大学ハリス理化学研究報告」を年4回刊行し、他大学、研究所、情報センター、図書館などに発信しています。



## 創造科学教育

### 創造科学教育夏期研修、加藤・山崎記念寄付金の奨励金



同志社ハリス理化学校出身者で、フェライトの発明など数多くの創造的業績をあげた加藤与五郎博士の「優れた創造力を発揮して科学技術を先導し社会に貢献する人材を育成する」という遺志を継承して、研究に意欲的な理工学部、理工学研究科、生命医科学部、生命医科学研究科および脳科学研究科の学生を中心に約10名が参加し、教員数人の指導により軽井沢で約2週間の創造科学教育夏期研修を毎年欠かすことなく続けています。また独創的な研究に取り組む学生に研究奨励金を給付しています。

## 社会貢献・地域連携

### 加藤与五郎実験教室



愛知県刈谷市の名誉市民である加藤与五郎博士の遺徳を後世に伝えるとともに、子どもたちに実験等体験学習を通して「発明発見科学する心」を育てるため、毎年刈谷市と連携し、加藤与五郎実験教室を本学理工学部と協働で実施しています。